

文化の森の誕生

資料で見る徳島県の文化施設



文化の森オープニングセレモニー

平成22年

4月 **27**日(火) ▶ 7月 **25**日(日)

徳島県立文書館 展示室

休館日 毎週月曜日 毎月第3木曜日
祝祭日と重なった場合は翌日

開館時間 午前9時30分～午後5時

展示解説 6月6日(日)・7月4日(日)
午後1時30分～午後3時

入場
無料



呉郷文庫



光慶図書館



徳島県物産陳列場

文化の森総合公園は、今年度一月に二〇周年を迎えます。二〇年といえ、生まれた人間も成人を迎えます。文化の森がはつらつと成人を迎えられるよう、今年一年間は各館にてさまざまなイベントが用意されています。

文書館は、まず春の展示として、「文化の森の誕生―資料で見る徳島県の文化施設―」を企画いたしました。平成二年一月文化の森が産声を上げるまで、いうまでもなく徳島県内でもさまざまな文化活動があり、文化施設が作られています。前半部分では、その内代表的なものではありますが、資料によってその活動をご紹介します。明治維新の熱がさめやらない、明治五年に行われた徳島城での「展覧会」を皮切りに、徳島公園の中に建てられた「徳島県物産陳列場」や、「光慶図書館」の活動。また、私設の資料館として現在にも大きな足跡を残す「具郷文庫」などを取り上げていきます。

さらに後半は、徳島県の一大文化プロジェクトであった文化の森総合公園が計画され、建設工事を経て、開園にいたるまでの過程を追ってみたいと思います。文書館が収蔵する文化の森関係の公文書・行政資料は、五〇〇点を超えます。多くは工事用の図面なのですが、例えば、工事の過程がわかる写真アルバムが全てであるなど、興味深い資料も数多く残されています。

ここでは、徳島における膨大な文化活動のほんの一端をご紹介することしかできませんが、文化の森誕生にいたるまでの軌跡を追うことにより、徳島の文化活動を見つめ直す機会となれば幸いです。

この展示の開催にあたり、三舟哲治様、海陽町立博物館、徳島県立図書館、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館をはじめ多くの方々にご協力いただきました。末尾ながらお礼申し上げます。

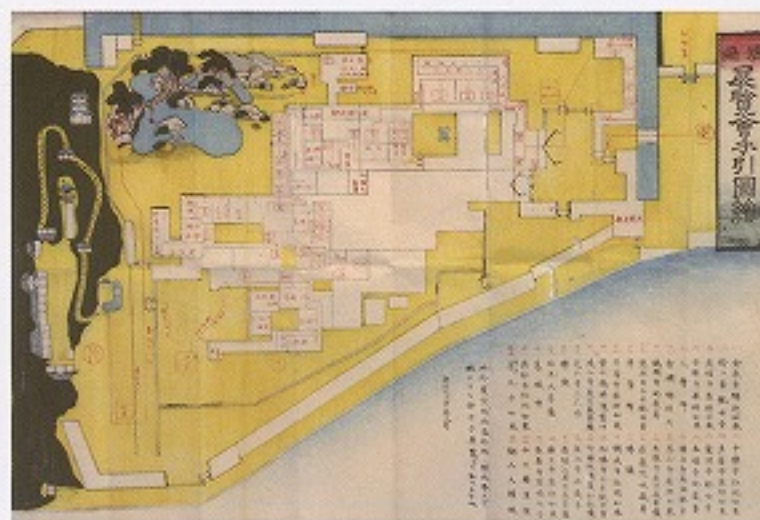
平成二二年四月二七日

徳島県立文書館長 結城孝典

明治五年

徳島城の「展覧会」

明治五年（一八七二）、東京の湯島聖堂で開かれた「文部省博覧会」（展示品の目玉は名古屋城の金鯱）が大評判を呼ぶなど、当時の日本には展覧会・博覧会のブームが巻き起こっていた。この年、徳島でも廃藩置県によって蜂須賀家の手を離れて間もない徳島城を



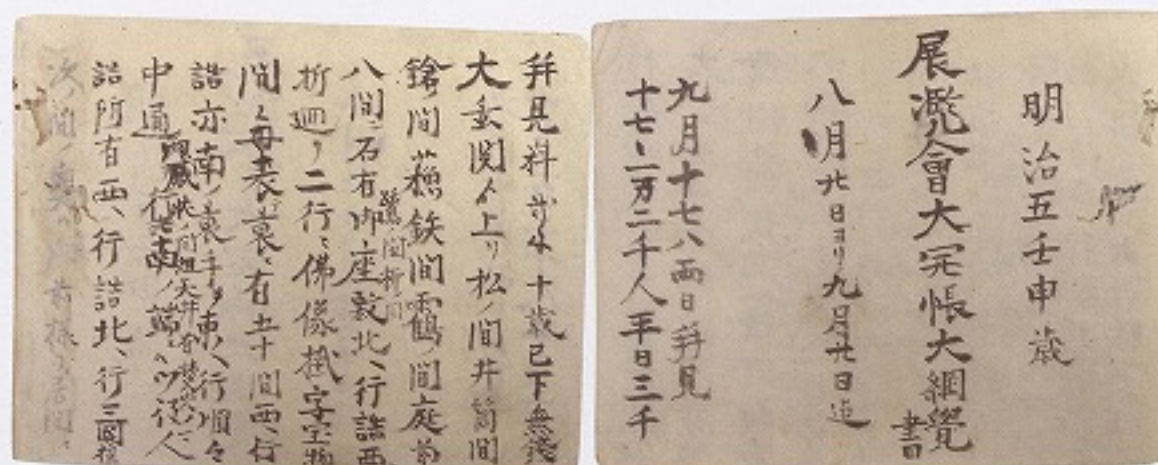
『徳島展覧会手引図説』（三木家資料）
展示品や売店などの位置を示した会場案内図

会場にした展覧会が開催されている。ここでは「明治五壬申歳八月廿日ヨリ九月廿日迄 展覧会大開帳大綱覚書」（木内家文書）をもとに、未だに謎の多いこの展覧会の実像に迫ってみよう。会期は八月二〇日から九月二〇日まで、一ヶ月間で、入場料は大人が二匁で一〇才以下は無料。県内の神社仏閣や富豪・旧藩士が出品した「仏像・掛字・宝物」「貝類」や「御代々御具足武器」などが徳島城御殿の各間に陳列されており、一部の展示品は販売もされていた。会場内外には「大綱覚書」の筆者が随一と驚嘆したのぞきからくりをはじめ、品玉（手品）・生き人形（生きているようにリアルな人形）・畜類などの見せ物小屋が二〇カ所、茶屋が三〇軒、開帳が一五〇カ所が展開しており、城山や太鼓櫓も観客に開放されていた。かつて蜂須賀家の権威と権力の象徴であった徳島城は、庶民にとって



『外景一覽図』（三木家資料）
展覧会のにぎわいを描いた木版図

の一大テーマパークと化していた観がある。当然のことながら、この展覧会は大評判を呼び、「大綱覚書」には一日平均三〇〇〇人、多い日には一万人を超える入場者が詰め掛けたという、にわかには信じがたいような記述もなされている。この展覧会は、殿様の御城から市民の憩いの公園へという近代徳島城の性格転換の嚆矢であると同時に、資料を来場者に展示するという博物館的活動の徳島における先駆といえるイベントであった。



『明治五壬申歳 展覧会大開帳大綱覚書』（木内家文書）
展覧会の見学記。会期や入場料、展示品などが記されている

徳島県物産斡旋所と文化事業

徳島県物産斡旋所（名称や形態は時代とともに変遷）は、明治時代より県物産の販売斡旋や産業振興を目的として設置されてきた施設である。ここでは、物産斡旋所における文化事業を中心に見ていくことにしたい。

徳島県物産陳列場と

〈阿波藩民政資料展覧会〉

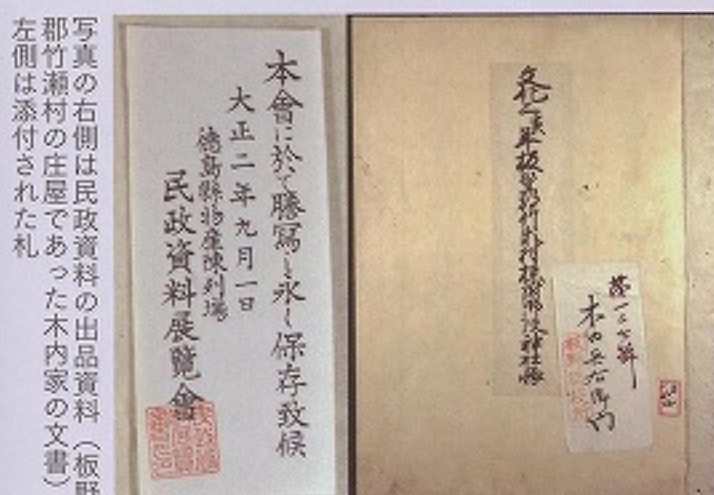
徳島県物産陳列場は、明治四一年（一九〇八）に徳島公園内に設置された施設であり、同施設内には、日露戦争に関する記念物品も展示されていた。

物産陳列場における文化事業として最も注目されるのは、大正二年（一九一三）と大正四〇五年（一九一五）の二度にわたって開催された「阿波藩民政資料展覧会」である。特に二回目は大正天皇の即位大典の記念事業として開催され、出品総点数は四八〇〇点余りにおよび、南北朝、室町時代より廃藩置県に至るまで六〇〇年にわたる文書・旧記・器具・建築材料などを網羅するものであった。

出品物の蒐集にあたっては県内各地から協力があり、その足跡として、江戸時代に美馬郡西端山村の組頭庄屋であった谷家の「資料出品目録」や海部郡塩深村の庄屋であった岡部家への「資料出品感謝状」などが残っている。「民政資料展覧会」は大正時代における徳島県の一大文化事業であった。



物産陳列場見学（小学生）
長江義雄撮影



写真の右側は民政資料の出品資料（板野郡竹瀬村の庄屋であった木内家の文書）
左側は添付された札

徳島県商工奨励館と 〈行幸記念徳島県産業展覧会〉

徳島県商工奨励館は昭和二五年（一九五〇）に徳島県藍場町に設置された施設である。

昭和二五年の天皇行幸中、三月二七日に商工奨励館の展示品の見学があったことを記念して、同年四月一日から同月一〇日までの間、「行幸記念徳島県産業展覧会」が開催された。展示品は徳島県産物一七〇〇点におよび、期間中に一二〇〇〇人の入場者を得るほどの盛況であった。戦後復興中の状況下において、広く県民一般に開放された展覧会が開催されたことは、産業振興といった点に留まらず、文化事業としても意義を持つものであった。



商工奨励館見学（昭和天皇）

徳島新聞社出版部内天皇陛下徳島県巡幸誌編集会編『天皇陛下徳島県巡幸誌』（1951年）より転載

私設の地域資料館「呉郷文庫」

阿波藍の転換期にドイツの合成染料の販売権を独占して当時の徳島の経済界に旋風を巻き起こした石原六郎（一八七三～一九三二）は、私財を投じて大正四年（一九一五）、麻植郡西尾村飯尾（現吉野川市）の自宅屋敷内に「呉郷文庫」という図書館・資料館を設立した。図書館の顧問には本県出身の歴史学者喜田貞吉、司書には郷土史家田所眉東（市太）をすえて、郷土史を中心とした図書を収集し一般の閲覧

に供した。とくに県内に所蔵されていた貴重な古文書を集め、購入できない重要史料は筆写して保存と利用の便を図った。基本財産の利子による独立採算、設置場所不変を原則とする独自の経営理念を掲げ、和漢書二二〇八冊、洋書五〇冊、最盛時には六〇〇〇冊を数えたという。

今から一世紀近く前に地域の文化事業発展の拠点として呉郷文庫は、全国的にも先駆的な文庫（図書館・資料館）として異彩を放っていた。設置者の死後休館し、図書も一部散逸したが、戦後県立図書館に売却移管された。筆写された史料のなかには『名東県歴史』五巻をはじめ、現在では原

本が失われてしまった貴重な文献が多く、今なお郷土史研究の貴重な文献資料となっている。なお、建物は洋風二階建て、瓦葺で、設計施工は当時の徳島県立工業学校によって行われ、その関係資料も残っており興味深い。

徳島における社会教育施設

徳島における社会教育施設として、私立の図書館や資料館などの施設が果たした役割はとて大きい。ここでは、大正時代に建設され現在に至るまで郷土史の研究に大きな足跡を残している「呉郷文庫」を紹介する。



絵葉書「呉郷文庫外観」



絵葉書「呉郷文庫内部」



『名東県歴史』五巻（呉郷文庫蔵）



光慶図書館

大正二年（一九一三）一二月、徳島県会は大正天皇即位の記念事業として、県立図書館の建設を議決した。徳島公園の城山南麓の土地（現徳島市徳島町城内一）を徳島市から借地して同四年一月に着工し、同六年六月二四日に徳島県立光慶図書館は開館した。開館の年に県学務課が作成した「図書館建築設計概要」によると、主要な建物と蔵書は次の通りである。

人員九六八人・新聞閲覧室（同二八八人）、二階に大閲覧室（同二二六八人）・特別閲覧室（同二四四人）・婦人閲覧室（同二四人）がある。この女性専用の閲覧室を設置している理由は、封建道徳、それとも風紀問題なのだろうか。

「蔵書」

「蜂須賀家ノモノ 三〇九〇五冊」
「県庁ノモノ 一〇〇〇〇冊」
「教育会ノモノ 四七七〇冊」

光慶図書館から

憲法記念館へ

「主要な建物」

本館二階建（洋式木造）
延面積二五二坪六合四勺（約八三〇㎡）
書庫三階建（煉瓦造）
延面積 八四坪（約二七七㎡）

ただ、本館の延面積は最終的にわずかに増やされて二五八坪二合（約八五二㎡）となっている（『徳島県立光慶図書館年報一』）。本館一階には児童閲覧室（収容

開館当初の蔵書は合計四五六七五冊を計画している。これで、書庫の一階部分（二八坪・約九二㎡）は満杯になると予想している。図書はすべて書庫に収納する閉架式なのである。蔵書の六八％は蜂須賀家所蔵の「阿波国文庫」本で、県立徳島中学校付属図書館から移管される。教育会本は、光慶図書館開館にともなって閉鎖する徳島県教育会付属図書館が寄

付する図書である。実際の寄付冊数は七三七冊で、二六〇三冊は巡回文庫に編入する予定となっている。

「図書館建築設計概要」と「徳島県立光慶図書館階下平面図」には焼け焦げの跡がある。光慶図書館は昭和二〇年（一九四五）七月四日の徳島空襲で焼失したので、その時のものかも知れない。

一〇月六日、光慶図書館長岡島幹雄は「旧戦災跡ニ科学館（電気館モ含ム）、郷土館、博物館ノ内容ヲ加味セル総合的ナ図書館ヲ建設シ県文化ノ進展ニ一層寄与」するとうる再建構想を述べている（『徳島県立図書館七十年史』）。同二年六月に県総務部管轄課が作成した「憲法記念館平面図」は、その構想に沿ったものであった。本館二階建（延面積四〇五坪・約一三三七㎡）、書庫三階建（延面積六〇坪・約一九八㎡）で、美術博物館・郷土室・科学室・宿泊室（三室）を設置したが、図書閲覧室は狭小にならざるをえなかった。

徳島県憲法記念館は昭和二十四年五月三日に蒲池正夫を館長に迎えて開館し、県内の学術・芸術・文化の拠点となった。翌年三月一三日の憲法記念館焼失後も、移動図書館や文化バスなど意欲的な活動が続けられた。

文化の森の誕生

文化の森橋上王前

文化の森総合公園は、昭和五五年（一九八〇）一月その年が本県の置県一〇〇年に当たることを記念して、徳島県の次の世紀がより輝いたものになることを願い「二〇〇年のモニュメント」として構想された。それは、昭和二六年（一九五一）建設の旧県立図書館や昭和三四年（一九五九）建設の徳島県博物館の老朽化による建て替えの検討や、県内に県立の美術館が無かったところにあっただろう。

同年八月、文化の森の基本構想などについて研究討論するため「文化の森」懇話会が設置され、翌年二月、知事宛に「県民の文化活動を結集し、かつ、推進する中核施設として『文化の森』建設に総力をあげて取り組まれないこと。」などを骨子とする報告書が提出された。それを受けて、五六年から、図書館、博物館、美術館など各文化施設の建設整備のあり方を検討するため、「基本構想検討委員会」が設置され、昭和六〇年までに各館の基本構想報告書がまとめられた。また、各館含めた徳島県内への文化総合情報発信のセンターとして文化情報コア（仮称）を置く構想となった。

一方、県庁の建て替えに伴う旧県庁舎の保全・活用や文書館設立の請願などにより、昭和六一年一月文書館の建設が発表された。五月に「文書館研究会」が組織され七月には基



文書館基礎工事



三館棟、図書館の工事

本構想報告書がまとめられた。

昭和六〇年八月一〇日に起工式が執り行われ、まず進入橋（文化の森橋）建設工事が着手されたのを皮切りに、六二年七月からは、博物館・近代美術館とともに公園全体の施設管理、情報センターの役割を担う二十一世紀館が入る三館棟、図書館棟、文書館棟が建設された。工事着工から平成元年まで約五年の歳月を経て文化の森付近の風景は大きく変貌を遂げた。

平成二年十一月一日に竣工式が、続く一月三日には開園式が執り行われた。県民参加での「第九」演奏とともに、県民文化推進の中核施設である、文化の森総合公園の完成をよるこびあった。



開園式イベント「第九」演奏

展 示 資 料 一 覧

No	表 題	年 代	備 考
明治5年 徳島城の展覧会			
1	明治五壬申歳八月廿日ヨリ九月廿日迄 展覧会大開帳大綱覽書	明治5年(1872)	キノウ00420
2	徳島展覧会手引図会	明治5年(1872)	三木家資料
3	外景一覽図	明治5年(1872)	三木家資料
4	明治五壬申年八月於旧城展覧会出品物目録	明治5年(1872)	徳島県立図書館蔵呉郷文庫
徳島県物産斡旋所と文化事業			
5	申上覚(半鐘倒木取調申上覚書)	寛政8年(1796)	海陽町立博物館蔵岡部家文書
6	文化三寅年板野郡竹瀬村棟附御改神社帳	文化3年(1806)	キノウ00833
7	今般民政資料展(民政資料出品感謝状)	大正2年(1913)	海陽町立博物館蔵岡部家文書
8	民政資料出品目録	大正4年(1915)	タニケ00628010
9	事業報告書綴昭25～30	昭和25年(1950)～ 昭和30年(1955)	K199801049
私設の地域資料館・呉郷文庫			
10	呉郷文庫本館建築工事仕様書その他	大正14年(1925)	K200800312
11	呉郷文庫本館建築工事仕様書その他	大正14年(1925)	K200800313
12	名東県歴史		徳島県立図書館蔵呉郷文庫
13	私立呉郷文庫絵葉書	大正	
戦前の学校博物館・図書館			
14	徳島中学校創立30年記念博物館建設寄付金募集	明治42年(1909)	シノハ01878
15	郷土教育の概観	昭和9年(1934)	G199902417
16	郷土教育紀要第一輯	昭和10年(1935)	G200501333
17	郷土教育紀要第二輯	昭和11年(1936)	G200501334
18	郷土教育紀要第三輯	昭和11年(1936)	G200501335
19	昭和9年9月21日 颱風海嘯災害海部郡記録誌海部郡町村役場調査	昭和9年(1934)	ナカタ00175
光慶図書館から憲法記念館へ			
20	開館式書類(憲法記念館)	昭和24年(1949)	徳島県立図書館
21	図書館日誌	昭和25年(1950)	徳島県立図書館
22	憲法記念館再建に関する書類	昭和25年(1950)	徳島県立図書館
23	徳島県立図書館新築設計図	昭和25年(1950)	徳島県立図書館
24	文化バス庶務の綴	昭和25年(1950)	徳島県立図書館
文化の森の誕生			
25	徳島県の文化振興のために —「文化の森」懇話会の報告書—	昭和56年(1981)	G198903609
26	昭和60年度文化の森進入橋梁関係	昭和60年(1985)	K200900928
27	徳島県文化の森総合公園 —計画のあらまし—	昭和61年(1986)	G198903616
28	文化の森シンボルマーク	昭和63年(1988)	K200900867
29	徳島新聞 文化の森開園特集	平成2年(1990)	徳島県立文書館蔵

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります。



文化の森完成間近

第39回 企画展

「文化の森の誕生

—資料で見る徳島県の文化施設—

平成22年4月27日

編集・発行

徳島県立文書館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

電話 088-668-3700

印刷

株式会社 教育出版センター

〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地27

電話 088-665-6060